

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	みやき町立三根中学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	① 学習状況調査結果、アンケート回答内容より、学習環境は一定の水準にある。しかし、多くの生徒自身が主体的に学びに向かうまでには至っていないことが課題である。 ② 特別支援教育は学級所属の生徒に対する支援の成果を、最終学年の進路決定に見ることができた。次年度、これまでと異なる支援を要することが予想されるため、その対応が必要である ③ 教育相談は年度途中から充実した。生徒指導との連動も図れていることが評価できる。しかし、生徒の主体性が増せばストレスも増えることが予想されるため、その対応が必要である
------------------	---

2 学校教育目標	三根中学校に誇りをもつ生徒を育てる ～自主、自律、寛容の態度形成を通して～
----------	---------------------------------------

3 本年度の重点目標	① 主体的な学びによる学習に向かう姿勢の強化、及び学力の向上を図る。 ② 生徒個々の特性を考慮した関わりの具現化、及び社会性の向上を図る。 ③ コミュニティスクールの実施に向けた調査と環境整備を実施する。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標(数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートにおけるマイプラン成果指標の達成(教師の意識調査80%以上)	・教職員間でマイプランを共有 ・学力向上の取組の成果及び課題共有 ・プロジェクトEに係る教育情報化の推進	A	・学力向上に係る取組は2学期後半より校内研究の研究授業から少し改善が見られた。 ・学習状況調査の結果は、3年はこれまでの傾向と同様、1・2年は対県比で若干上回る。 ・教師の意識調査では、学力向上への寄与の意識が伺える。	A	・タブレットPCを活用した学力定着を継続する。 ・1年の英語科の課題性は、必要に迫られないと英語習得の意欲が高まらない。英語検定など目標を持たせる。 ・小中の連携を図り、学習に継続性を持たせる。
	○特別支援教育の充実	○切れ目のない支援体制を構築(教師の肯定的評価70%以上)	・個別の支援計画、指導計画を関係職員が共有し、効果的に対応 ・校内の連携機能の充実及び巡回相談の活用 ・保護者との連携強化と支援の充実	A	・コーディネーターを軸に支援及び指導を継続できた。 ・情緒学級の不登校状況が改善された背景には、担当者等の関わりがある。 ・WISK検査の実施機関と連携できた。	A	・障害と言っても一つの分野で突出できる才能もあるということを念頭に。 ・社会への適応性、不登校などの対応、大変であるが、きめ細かく対応できている。 ・次年度、支援学級所属生徒が倍になるのは大変かと思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳」に対する生徒の肯定的評価の割合の向上(90%以上)	・道徳の授業、全教育活動での道徳性の追究、実践促進 ・担任、副担任による道徳の授業の充実	A	・道徳の授業は組織的に実施した。 ・生徒の道徳の授業における取組は熟考できたと思う割合が高かった。 ・保護者等への取り組みの周知が不足している。	A	・社会性の低下、マナーの悪さは大人の責任である。 ・並べ、言動の美しさなど日本の良さを大切にさせたい。 ・ボランティアはよくやっている。 ・学びだけでなく、実践できるかどうか課題である。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○2回実施するQ-U結果において、2回目で不満足群、非承認群を減少	・日常生活の観察 ・生活アンケートの実施(県調査を含め11回) ・協議会等にて状況確認と対応協議	A	・いじめに関わった加害被害者、学校生活に不満を抱える生徒が一定数居る。 ・保護者の中には、もっと生徒に寄り添ってほしい、という思いを持つ方がいらっしゃる。	A	・小中のいじめは大人になっても引きずっていく。生徒に寄り添い、変化を見逃さない。 ・未成年の自殺者の問題、生徒目線の支援を。支援、指導を継続させてほしいという意味を含め評価A。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食喫食率(食育アンケート95%)と食の大切さの理解及び実践の向上(学校評価肯定的回答80%)	・食育指導の充実(年間計画による遂行) ・給食週間、みやき町食の日を機に食習慣改善の指導	B	・食事と健康に対する生徒の意識は8割以上であった。 ・朝食喫食率82.0%、好き嫌いが無い割合42.6%であり、実態と意識のずれが見られる。 ・保護者の意識と生徒の実態のずれが大きい	B	・食の大切さを理解しているものの、好き嫌いが顕著なので改善していける取り組みを。 ・家庭の責任も大きい。家庭へのはたらきかけを行う。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○前年度の超過勤務時間(平均、個別)を下回る。	・超過勤務時間の実態に即した把握 ・メンタルヘルス及び業務効率化に係る職員研修の実施 ・超過勤務過多職員に個別ヒアリング実施	B	・超過勤務時間は平均は下げ止まりの状況にある。個別にみていくと、月45時間を超えた月が延べ74月と非常に多い。平均すると一人当たり4.3月となる。業務の偏りよりも、個々の業務削減の差が大きい。	A	・教員から病休を出さない。いいパフォーマンスのためにきちんと休養できるようにしたい。 ・勤務の様態改善に努めているようだ。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
	重点取組内容	成果指標(数値目標)					
○人格・キャリア形成	◎三根中学校に誇りをもつ生徒の育成	○三根中所属への肯定的評価の向上(意識調査肯定的評価を90%以上かつ4段階評価の4の割合を50%以上) ○キャリア形成に係る学年の取り組みの充実	・生徒会活動、学年経営、学級経営の充実 ・家庭(保護者)との連携 ・生活アンケート、学校評価に係る意識調査により教育効果を検証	A	・大きな問題行動や喫煙の学校課題が顕著でないため、生徒は安定した学校生活を送り、満足度が高い。 ・保護者は学年が上がるにつれ、入学させてよかったと思う割合が高くなる傾向にある。 ・職員は安定した状況に満足し、やや向上心や発展に向かう気持ちが不足している。	A	・人生で同窓会と言えば中学時代の仲間が想起される。中学校に誇りを持っているのは良い。 ・生徒は元気にあいさつしている。このまま日々の学校生活を充実させてほしい。 ・方法論を大切にほしい。

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	① 学びに意義を持たせ、主体的で深い学びの確立と学力の向上を図る。 ② 生徒個々の特性を考慮した関わりの具現化、及び社会性の向上を図る。 ③ 新しい学校の在り方につながる、教育実践の進化・深化を図る。
--------------------	--